

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	22H04929	研究期間	令和4(2022)年度～ 令和8(2026)年度
研究課題名	アフリカ狩猟採集民・農牧民のコンタクトゾーンにおける子育ての生態学的未来構築	研究代表者 (所属・職) (令和6年3月現在)	高田 明 (京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授)

【令和6(2024)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要であるが、概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれる
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(研究の概要)</p> <p>アフリカにおける養育者—子ども間の相互作用に関するデータ収集・分析により、行動の社会化、言語の身体化、制度の内面化、及びそれに伴う行動・言語・制度環境の再編プロセスを明らかにしつつ、「子育ての生態学的未来構築」として理論構築から応用実践までを目指すアクション・リサーチである。</p>		
<p>(意見等)</p> <p>狩猟採集民と農牧民のコンタクト・ゾーンである3地域（ボツワナ、ナミビア、カメルーン）におけるフィールドワークによるデータ収集と研究者派遣や招聘を伴う国際連携研究は、順調かつ活発に実施されており、アクション・リサーチとしての展望・成果を既にいくつか見いだしている点は評価できる。行動の社会化、言語の身体化、制度の内面化を通じて、ハビトゥスとマイクロ・ハビタットが相互構築されていく仕組みの解明という点では、アフリカ研究を専門としない研究分担者による理論的貢献を踏まえた、より汎用性の高い創発的な成果を期待する。</p>		